

『就実論叢』第45号 抜刷

就実大学・就実短期大学 2016年2月29日 発行

The American Heritage First Dictionary の
語義と連想についての一考察

On the Study of Word Definition and its Association
in *the American Heritage First Dictionary*

田 淵 博 文

The American Heritage First Dictionary の 語義と連想についての一考察

On the Study of Word Definition and its Association
in *the American Heritage First Dictionary*

田 淵 博 文

はじめに

今年の春と夏の休暇を利用して、英語を母語としているアメリカの児童はどんな（基本）単語を学習しているのかを調べてみた。アメリカで出版されている2冊の辞書は、5歳から8歳の児童を対象とした *The American Heritage First Dictionary*¹ と5歳から7歳の児童を対象とした *Merriam-Webster's First Dictionary* である。どちらも年少者を対象としたすぐれた英語学習辞典として有名である。筆者の好みで言えば、後者の辞書のほうが日本人英語学習者にとっては引きやすく、joke やなぞなぞが掲載されていたり、マザーグースや有名な文学作品からの引用があったりして、学習者に楽しめる工夫がなされているように思われる。どちらの辞書も、制限語彙が2千語以内で、語義が平易に定義されているが、英語を母語としていない日本人英語学習者だけでなく英語教師にとっても、極めて有益であると考えられる。

辞書を読むと言う作業は大変であるが、少なくとも私たち（60代）の世代の英語教師は『基本英語一千語』（開拓社）や『英語基本語彙辞事典』（中教出版）や『基本英語百科事典』（研究社）の辞書や事典を読むことで、今日まで学問的恩恵を受けてきていると思っている。電子辞書でなく、紙媒体の辞書を引き、じっくり正確に読むことで語彙力を身につけてきたように感じられる。

本稿では、*The American Heritage First Dictionary* から、紙面の都合で21の単語を選び、その語義の説明や例文などを吟味することによって、読者はどんな連想をするのかということに焦点をあて、発想の違いについて考えてみたい。また、同時に辞書を読むという行為が、英語学習の上でいかに大切な作業であるかということについても、例を引きながら具体的に言及してみたい。教師として英語学習者に基本単語を教える際のヒントになればと考えている。

I. *The American Heritage First Dictionary* から選んだ21の単語の用例一覧

[太文字は原文どおり。以下用例の後の（ ）の中に辞書のページ番号を記す。]

1. **barber** A **barber** is a person who gives haircuts. **Barbers** also cut beards. (20)

- cf. A **beard** is the hair on a man's chin and cheeks. (23) They (cheeks) are the wide, soft areas below your eyes. (56)
2. **bush** A **bush** is a plant. It has many branches and leaves. **Bushes** are not as big as trees. Flowers grow on some **bushes**. (43)
 3. **caboose** A **caboose** is the last car on a train. Trains that have **caboose**s usually carry things that people buy and sell. (45)
 4. **carousel** A **carousel** is a kind of ride you see at a park or fair. It is sometimes called a **merry-go-round**. (50) cf. **Merry-go-rounds** have horses and other animals made of wood and plastic. People sit on the horses as they go around in a circle. (202)
 5. **closet** A **closet** is a very small room. People keep clothes, (), and other things in **closets**. (62)
 6. **eye** An **eye** is a part of the body. People and animals see with their **eyes**. Your **eyes** are in the middle of your face, one on each side of your nose. (101)
 7. **gingerbread** **Gingerbread** is a kind of cake made with ginger. Mona ate a piece of **gingerbread** for dessert. (125)
 8. **goeey** To be **goeey** means to stick to everything. Honey sticks to the spoon you use to get it out of the jar. It sticks to your fingers. Honey is very **goeey**. (129)
 9. **grin** A **grin** is a big smile. Carita cut her pumpkin so that it had a big **grin** for Halloween. She thinks pumpkins with **grins** look funny. (133)
 10. **hill** A **hill** is a big () in the ground. You can climb up one side of a **hill** and down the other side. **Hills** are like small mountains. (147) cf. A **mountain** is an area of land that is higher than the land around it. The tops of very high **mountains** are covered with snow. (210)
 11. **kettle** A **kettle** is a large pot. Water is boiled in **kettles**. (170)
 12. **loaf** 2. To **loaf** also means not to work when you should. Darius was **loafing** instead of mopping the garage. (188) cf. A **mop** is a tool used for washing floors. We used **mops** and buckets of water to clean the gym before our class carnival. (208)
 13. **pear** A **pear** is a kind of fruit. **Pears** are yellow, green, brown, or (). They are round at both ends, but one end is smaller than the other. (239) cf. **Red** is a color. Some apples and fire engines are **red**. **Redden** means to become **red**. The sky **reddens** as the sun sets. (267)
 14. **porch** A **porch** is a covered area at an entrance to a building. People like to sit on their **porches** and rest during the summer. (252)
 15. **potato** A **potato** is a kind of vegetable. It has brown skin that is covered with (). **Potatoes** grow in the ground. (253)

16. **snail** A **snail** is a very small animal. It has a soft body and a hard shell. **Snails** move very slowly on land or on the bottom of the sea. (301)
17. **sun** The **sun** is a yellow star. It shines in the sky during the day. The **sun** gives us heat and light. (319)
18. **tadpole** A **tadpole** is a young frog. **Tadpoles** hatch from eggs. They are tiny and have tails. Some are black, and some are clear. (324)
19. **toad** A **toad** is an animal that is like a frog. **Toads** have skin that is rough and dry. Frogs like to live in water, but **toads** like to live on land. (338) cf. A **frog** is a small animal. It has smooth skin, large eyes, and strong back legs. **Frogs** live near water and eat flies. (119)
20. **yarn** **Yarn** is a kind of string. It is made from wool, cotton, or other threads that are twisted together. **Yarn** is used to make sweaters and socks. (381)
21. **zipper** A **zipper** is used to hold parts of clothes together. **Zippers** are made of plastic or metal. They have two rows of little () that look like teeth. These rows fit together when the **zipper** is closed. (385)

II. 21の単語の語義と用例の分析と日米の発想の違いについて

まず barber から分析を加えることにする。例文 5, 10, 13, 15, 21の語義の中の () は、筆者が学習者に考えさせるためにあえて空欄にしたものである。

1. barber 散髪屋はどんな仕事をする職業か。日本では、一般に 1. 散髪 2. 髭剃り(顔そり) 3. 洗髪(シャンプーは別料金)がセットになっている。欧米では別料金が普通である。この barber の定義では1と2を行うようである。辞書の定義にはないが、通例従業員にチップを払うのが常識となっている。イギリスなどでは、散髪のみで、15分から20分ぐらいで済むが、髪が首筋に残りかゆかった思い出がある。

beard の語義に注目してみると、われわれが考えているよりもひげの範囲が広いことが分かる。「あごと頬に生えている毛」のことで、顔全体のひげをさすとも言える。日本の英語教師は、sideburns (もみあげ)、whiskers (ほおひげ)、moustache (口ひげ)、beard (あごひげ)と学生に教えていると思うが、beard について間違っって教えていることもあるのではなからうか。さすがに、『ジーニアス英和辞典』では、「あごひげ。時に、whiskers と moustache を含めることもある」と表記されている。おとぎ話に出てくる老人やサンタ・クロースのはやしているひげも beard である。

2. bush bush が plant (草木、植物)であるということ。語義に注目してみると、tree との大きな違いは、bush は、たくさんの枝や葉はあるが、(木の)幹 (trunk) はない

ということ。また花をつける。英語学習辞典では trees and bushes を「高木と低木」と訳している。「バラの木」などは、幹がないので tree ではなく、**a rose bush** と言う。² 若かりし頃、アメリカで一度だけホームステイしたことがあるが、9歳ぐらいの子供とかくれんぼをしていたときに、彼が鬼となり私が庭の背の低い茂みの後ろに隠れていたが、私を見つけた際に behind the bush と言っていた。半円形のあまり高くない茂みを指していた。

3. Caboose は、列車の最後尾の車両で、これがある列車は貨物列車（人々が売ったり買ったりする物を運ぶ列車）であると定義している。日本のほとんどの学習辞典では、「貨物列車の後部の車掌室（乗務員用車）」という意味を載せている。Caboose がどんな目的で使われているのかと言う説明はここでは十分になされていない。Caboose の車両だけ形が変わっているものもあるそうである。アメリカ人でさえも、caboose に何が積み込まれているのか知らない人もいるそうである。一説には「お金や銃」が積み込まれていると考えている人もいるらしい。またこの単語はあまりなじみがなく、イギリス系の辞典には全く掲載されていなくて死語に近い単語といえる。それゆえ、語の選択は国や辞書編纂者によってずいぶん異なるという一例である。日本の貨物列車の最後尾には caboose に相当する車両はない。
4. Carousel は「公園やお祭り（移動遊園地のフェスティバル）で目にする乗り物の一種」と定義されているが、日本人には merry-go-round のほうが馴染みがあると思われる。Carousel と言う単語は、the luggage carousel (at the airport) 「(空港の) 手荷物引き渡し用コンベヤー」として、ほとんどの日本人英語学習者には知られている。しかし、日本では「回転木馬」の意味ではあまり教わっていないと思われる。
5. Closet の定義で日米の生活様式の違いが分かると思う。学習者に空欄に入る単語 (shoes) を考えさせることも大切であると思う。日本ならば玄関に下駄箱があるが、アメリカでは靴や衣類や掃除機やアイロン台や家財道具や食料やゴルフクラブなどは closet に収納する。() に何が入るかを発表させたり、other things がどんな物かを考えさせることも、教師の大切な役目のひとつであるように感じられる。
6. Eye (眼) が顔の中心にある (Your eyes are in the middle of your face.) と言う認識の仕方は、日本人の認識の仕方とはかなりかけ離れていると思う。筆者 (私) は顔の中心に鼻があり、その両側に眼があると認識している。この「眼」の語義の説明から判断すると、アメリカ人が人間の顔を描く際に、眼を顔の中心にすえると考えられる。日米で顔の描き方が異なるという一例である。

7. Gingerbread は、「ショウガでつくられるケーキ（クッキー）の一種」と定義されているが、厳密にはショウガの他に糖蜜やバターも加え、デザートとして食べるものである。1975年に *The Gingerbread Boy* という絵本が出版されたことがある。³ Ginger を使った単語はほかにも、ginger and lemon, ginger ale, ginger beer, ginger wine, ginger tea などがある。日本では、生姜は生姜湯として、体を温める飲み物として愛飲されている。Gingerbread であるが、この辞書には記述されていないが、昔はこれをけばけばしく飾ったところから「見掛け倒し」の意味もある。
8. 「ねばねばした」と言う意味では、日本人には sticky のほうが馴染みがあると思われるが、この辞書の見出し語に sticky は載っていない。例文から、蜂蜜が書かれているが、日本人ならば、納豆やオクラや山芋（自然薯）を連想すると思われる。Bread and butter や bread and margarine や bread and honey から、honey という単語を選択したと考えられる。日本人英語学習者は、gooey の名詞形が goo で、形容詞の比較級、最上級が gooier, gooiest であることもあまり知らないと思われる。Sticky と言えば、炊き立ての日本米を連想するアメリカ人が多いのではなかろうか。
9. Grin には、「歯を見せて笑う。わけもなくただニヤニヤ笑う。」という意味がある。10月31日の夜にハロウィーンを祝うが、カボチャを顔の形にくりぬいて jack-o'-lantern（カボチャちょうちん）を作る家庭もあるが、そのときに彫られた顔の表情が grin である。Lewis Carroll 著 *Alice's Adventures in Wonderland* (1865) では、'grin like a Cheshire cat' という表現が出てくる。欧米人は grin という単語から、カボチャちょうちんや Cheshire 猫を思い浮かべるのではなかろうか。
10. Hill は「地上に隆起したもの（出た大きなこぶ）」と定義されている。空欄に bump が入るが、bump という単語を入れることは難しいと思われる。イギリスでは hill と言えば、頂が丸くあまり高くない山を指し、2000フィート（約600メートル）以下の山を hill と呼んでいる。Climb a hill（丘を登る）という表現は学習しているが、イギリス人が愛好する rolling hills（なだらかな丘）を登る hill-walking という名詞は、あまり知られていないのではなかろうか。
11. Kettle は文字通り深鍋（やかん）で湯を沸かす道具である。なべとやかんの両方を想起すると考えられるが、イギリスなどでは沸騰するとピューピューと音を立てる whistling kettle が主流である。
12. 日本人英語学習者は loaf の名詞形の例として、a loaf of bread（パン一斤）は学習して

いると思われる。しかし、loafの動詞形（だらだらやる、のらくら働く）の意味や用法は教わっていないのではなからうか。また欧米では掃除のときに、mopが主流で、日本にあるような掃除しやすい竹箒などはあまり見かけない。

13. 梨の色と形状における違いがわかる。梨の皮の色といえば、黄色、緑色、茶色までは想像できるが、空欄に red はなかなか入らないと思う。赤色といっても実際の色は rust(赤褐色)に近いさびの色である。日本人が思うりんごや消防車の赤色ではない。赤色の範囲も広く、赤と認識する色の境界があいまいである。例文では太陽が沈むときの色が「赤」と認識しているようである。ちなみに赤毛は ginger hair と言うが、実際は a light reddish-yellow colour と定義している。形状は円錐形で裸電球や小型のひょうたんに、似ている。山形名産の「ラ・フランス」の形を思い浮かべることができれば一人前である。リンゴが不運な果実とされているのに対し、梨は幸運な果実とされている。筆者は、イギリスのコーンウォール州にある Land's End で土産物として梨の置物を購入したことがある。またニッポンの二十世紀梨の果肉は硬くて、さくさくしているが、西洋梨の果肉は、歯ごたえがバターのように柔らかいと形容されている。
14. Porch は小説や随筆に良く出てくる単語であるが、日本人にはその位置と役割があまり理解できていないと思われる。「いすなどが置ける比較的広い（玄関）ポーチ」と定義されている。屋根がある玄関で、ベランダにじかに座るのではなく swinging / rocking chair を出して、レモネードやビールを飲みながら家族とゆったりくつろぐ場である。訪問客を迎えたり、送ったりするのもここである。ガレージセールもここで行われることがある。夏には虫除けのための mosquito net (蚊帳) を porch の周囲に張っている家庭もある。
15. ジャガイモの皮の色は茶色と認識している。Potato eye (ジャガイモの芽) があるので、完全な球形ではなく、でこぼこしている。それゆえ空欄には bumps が入る。5月から6月にかけて、日本でも白や薄紫色の花が咲き始める。しかし、地下のジャガイモの生長を促すために、地上の可憐な美しい花を摘む。空欄に bumps という単語を入れることができるようになれば、たいしたものである。
16. Snail は小さい動物で体は柔らかく、殻は固い。とてもゆっくり動くのが特徴である。すぐに、英語学習者は「かたつむり」であると理解できる。歩みの遅いことを形容して snail-paced, at a snail's pace, be as slow as a snail, また e-mail に対して、従来の郵便のことを snail mail とユーモラスに表現することがある。読者は、次の move very slowly on the bottom of the sea に驚くと思われる。答えは「らせん状に巻いた貝殻」

つまり「巻き貝」の意味である。学習者は「さざえ」のような貝を連想できれば良い。しかし、日本の英和学習辞典では snail の訳として「かたつむり」しか掲載していない。さすがに『ランダムハウス英和大辞典』には、第1義として「巻き貝」、第2義として「かたつむり」と記述されている。⁴ またカタツムリやナメクジ (slug) は庭の害虫とみなされている。『マザーグース』に、それを立証するような以下の詩がある。Snail, Snail, Come out of your hole, Or else I'll beat you, As black as a coal.

17. 日本人は太陽、月、星を別個のものとして認識している。それゆえ、The sun is a yellow star. という定義に驚くのである。この star の意味は星ではなく天体と訳すべきである。太陽は熱と光を与える貴重な存在である。太陽がなければ生命は存続できない。日本において太陽は尊いものとして宗教においても尊敬の念を払われている。神道では太陽のことを天照大御神、仏教では大日如来として信仰の対象になっている。
18. おたまじゃくしは蛙の子で卵からかえる。また小さくて尾がある。「色は黒いのもいれば、透明なものもある」と定義されているが、筆者は今までに透明なおたまじゃくしを見たことがない。日本では、おたまじゃくしの色を黒色と認識しているのは、音符を「おたまじゃくし」と呼称しているところからも理解できる。Clear といっても、透明なもの以外に「半透明なもの」も含めていると解釈するほうが良いのではなからうか。
19. Toad (ひきがえる) の皮膚は、がさがさしてかわいている。Frog の皮膚はすべすべしていて、眼は大きく後脚が強い。水際に住みハエを食べる。ヒキガエルは茶色、frog は緑色をしている。**Frog は jump するが、toad は walk (のそのそと) 歩く。**⁵ Kenneth Grahame (1859-1932) の児童文学作品に、*The Wind in the Willows* (1908) という作品があるが、Mole, Rat, Badger, Toad が登場する。陸地で車に驚きショックを受ける Toad, また A.A.Milne (1882-1956) がこの作品をドラマ化した *Toad of Toad Hall* (1929) でも Toad が登場し、主に陸地で活躍する設定になっている。Toad には、'that little toad' (あのいやな奴) というように軽蔑を込めて言う場合もある。
20. Yarn という単語はあまり日本では馴染みがないように思われる。「より糸」や「織糸」の意味である。例文に「セーターや靴下を作るのに使用される」と記述されている。さらに例文として、Cats love a ball of yarn. 「ネコは糸玉が大好きだ」と言う表現があれば、yarn という単語をより理解できると思われる。
21. Zipper (チャックやファスナー) を「歯のように見える2列の小さなでこぼしたもの」と定義している。空欄に凹凸のあると言う意味の bumps が入れれば正解である。一般に、

bump という単語は「スピード防止帯」という意味でよく使用されている。車を減速させるために道路上に隆起させたものである。イギリスに若い頃1年間留学したことがあるが、学校周辺や大学のキャンパスの敷地内にも、この speed bump が設置されていた。イギリスでは、このスピード防止帯のことをユーモラスに sleeping policeman と表現している。

おわりに

The American Heritage First Dictionary から、21の見出し語を抽出し、語義の説明や例文を分析し、日米の連想の違いについて論じた。日本の中学生は3年間で約千語の単語、高校で最低でも約3千語の単語を学習していると思われる。制限語彙が2千語以内の単語であるので、本稿で扱った英英辞典の見出し語の語義の説明や例文を読むことは、日本人英語学習者にとって、あまり難しくないと考えられる。しかし、英和辞典が主流で、教室での授業では大多数の生徒や学生が英和辞典のみを引いているのが現状である。アメリカ人の児童にとって身近な基本単語を、意外と日本人学習者は知らないこともある。辞書を正確に読むと言う作業は、英語学習の上で大切なことである。筆者は5, 10, 13, 15, 21の例文に空欄を作ってどんな単語が入るかを読者に考えてもらうことも有益であると考えた。Shoes, bump(s), red という単語を思いつくようになれば、英語の語感が磨かれていると考えられる。英語教師は学習者にいかに英語を教えるかということに関して、いつも工夫をしていくことが大切である。

本稿で分析した辞書は、5歳から8歳までの英語母語話者の児童を対象としたものであったが、日本人の大学生や英語教師にとっても、学習の上で大いに参考になると思われる。辞書はただ単に引くものではなくじっくり正確に読むものであるということを、日本人英語学習者に再度認識してもらいたい。

注

1. *The American Heritage First Dictionary* (Boston/New York: Houghton Mifflin Harcourt, 2007/2010).
2. 『基本英語百科辞典』(東京: 研究社、1964)、143.
3. Paul Goldone, *The Gingerbread Boy* (New York: Clarion Books, 1975).
4. 『ランダムハウス英和大辞典』(東京: 小学館、1973/1994)、2561.
5. 『基本英語百科辞典』、407.

使用テキスト

The American Heritage Dictionaries ed. (2007/2010) *The American Heritage First Dictionary*. Boston/New York: Houghton Mifflin Harcourt.

参考文献

1. 上田明子、北村宗彬、隈部直光、森住衛、若林俊輔編（1983）『英語基本語彙辞典』中教出版
2. ハロルド・イー・パーマー（1942／2000）『基本英語一千語』開拓社
3. 福原麟太郎、岩崎民平監修 富原芳彰編（1964）『基本英語百科辞典』研究社
4. 堀内克明、亀井俊介、猿谷要、中村敬、藤井基精、船戸英夫編（1984）『カラー・アンカー 英語大事典』学習研究社
5. 米須興文、大沼雅彦、池上嘉彦編（1973／1994）『ランダムハウス英和大辞典 第2版』小学館